

精神保健市民セミナー

協働の力で未来照らして

「精神保健市民セミナー」協働の力で未来を照らして(社会福祉法人せらび後援会主催)がこのほど、苫小牧市文化会館で開かれ、植苗病院の片岡昌哉院長代理が「自分らしく生きるために」と題して講演した。精神障害者への理解を願って、日本の精神医療の歴史や今後の動向について語った内容を紹介する。

▽経験が大事 何らかの態度を取る中に自分らしさは、一人で表れます。自分らしく生ずると山小屋にこもったきようと、自分のことは4畳半の部屋で30年かり考えていても、自分お経を上げたりして、見らしさは分かりにくい。つけられるものではない。いろいろな出来事で自分自身。人生のさまざまが動き、人と交わる中でな出会いや出来事で、行知るものです。一言で言動したり、感情が引き起えれば経験。これがすくこされたり、人に対して 大事です。

▽障害者にも権利 誰かが人生で生老病死に出会い、そこからさまざまな喜怒哀楽を経験します。つらく苦しいこともあり、東日本大震災のように、大多数の人が、自分が原因ではない災害にいきなり巻き込まれて

す。障害があるから、あをさせたりしていません。誰か他のどのような理由であっても、邪魔されたり「あなたは失敗するから資格がない」と止められたいはずはない。当時の精神科の生活は、プライベートが無く、男性と女性の病棟が分ける以前から、日本をめぐり、世界的な精神科ではそう

自分らしさは経験から

喜怒哀楽、味わう権利

命を奪われたり、大切な全てものを失うことがある。そういう中でも、しっかりと感情を味わい、それを受け止めて生きていくことが大切です。

生老病死で喜怒哀楽を味わい尽くすことは、誰にも保障された権利で50年もの間、院内暮らし

す。障害があるから、あをさせたりしていません。誰か他のどのような理由であっても、邪魔されたり「あなたは失敗するから資格がない」と止められたいはずはない。当時の精神科の生活は、プライベートが無く、男性と女性の病棟が分ける以前から、日本をめぐり、世界的な精神科ではそう

いことが行われてきました。かつて日本では一つの精神病院に1000床もあり、それだけの人を精神病院という名の下に閉じ込めていたのです。

▽レットテルの警告 私たちだって一流大学を受験して落ちたり、高

嶺の花の女性と付き合っ
て捨てられたり、パチン
コをして負けてしまった
り、さまざまな失敗をし
ます。でも、それは一つ
の豊かさとして人生に取
り込んでいきます。

ところが、精神病とい
ったんレットテルを貼られ
ると、失敗したりわれわ
れと同じ人生を歩む資格
がないと見なされる。精
神病院で淡々と喜怒哀楽

のない人生を過ごす事が
最も望ましい一考えら
れ、それで精神病院は成
り立っていました。

プロフィール 1986
年、神戸大学医学部卒。
京都や沖縄の病院に勤務
し95年に来道、医療法人
こぶし植苗病院に勤務。
柳町診療所所長、植苗病
院副院長を経て、同病院
院長代理。



片岡昌哉植苗病院院長代理

